

NEWS LETTER FROM ZAMBIA

VOL.3 2015.3

学校保健

ヘルスセンターが地域の学校に赴いて健康教育をします。公の場で話す機会が多く慣れているのか、こういった機会でのプレゼンテーションをするのがザンビア人は上手だと思います。今回は日本でいう中高生の女子を対象に、破傷風のワクチンを接種していくというプログラムを兼ねていました。試験問題に出てくるほど新生児破傷風がメジャーなのです。



教室での健康教育



一列に並んでワクチン接種

住宅事情 ～防犯に関して～

ザンビアでは空き巣や強盗などの犯罪が珍しくないほどにあり、私たち隊員は安全面に配慮された家に住んでいます。道路からはどんな家かわからないほどに高い塀がずらりと並んでいます。塀の上には侵入防止のワイヤーやガラス片がぎっしり。ドアや窓には鉄格子がしっかりとついています。持ち歩く鍵の数も5つと日本では考えられなかった数です。格差がものすごい国なので、私の配属先のヘルスセンター付近は家がぎゅうぎゅうとひしめきあい塀も木でできたものや塀自体がないこともしばしばです。

看護師国家試験

国家試験を受けました。さすがアフリカ。国家試験でしたが、開始は1時間遅れ…。結果発表はなく、そろそろかなという時期に問い合わせで合否がわかるというものでした。

ザンビアの人々は、見た目や社会的地位を重視する傾向にあるようなので、ここぞというときにはこのIDをちらつかせています。

医師不足からザンビアの看護師の仕事の内容は、薬の処方や縫合も含まれます。



ザンビアに来て早いもので8ヶ月。毎日思うのは子どもの笑顔は本当にかわいいということです。

毎日降っていた雨も最近ではなくなり、雨季も終わろうとしています。マーケットや路上ではトウモロコシのシーズンになったようです。

本当に不定期ですが、ザンビアのことを少しずつお伝えします。



鉄格子で防犯対策



塀に囲まれた家



塀の上にはガラス片



田中 綾
青年海外協力隊 平成26年度1次隊
派遣国:ザンビア 看護師隊員
活動期間:2014年7月-2016年7月